

I 北陸における E S D 実践事例

1. 石川県金沢市立戸板小学校

人・もの・こととかわりながら学ぶ ～金沢市立戸板小学校における ESD の取り組み～

金沢市立戸板小学校

はじめに

本校は、金沢市の中心部と金沢港を結ぶ金石街道沿いに位置している。校区は町のいたるところに神社があり、田んぼや梨園も残る地域である。また、南端には犀川がある。近年は、大きな道路に囲まれて都市化が進み、工業団地や商店・新興住宅地などが多く見られるようになってきた。

本校では「生きる力をもつ子の育成」を学校教育目標として掲げ、自然や地域を愛し、お互いを思いやる「心豊かな子」、自ら課題をもち、自ら高めようとする「学ぶ意欲をもつ子」、かわりあいの中で「よく考え行動する子」をめざす子ども像として、日々の教育活動に取り組んでいる。

平成 21・22 年度は、研究主題「意欲をもって活動する子」のもと、学習指導委員会の副題を「かわりながら考えを深める授業をめざして」として、かわりの中で、考え、学びを深めていく授業実践をすすめている。平成 21 年度にユネスコスクールとなったことにより、ESD を教科学習で習得した知識・技能を単元レベルで活用するものととらえ、学校研究に位置づけていくこととした。

本稿では、戸板小学校での 2 年間の実践を次の項目の中で述べていく。

- ① ESD をどうとらえるか
- ② 実際の取り組みの内容
- ③ 取り組みの成果と今後の課題

1 ESD をどうとらえるか

(1) 総合的な学習の時間・生活科と ESD

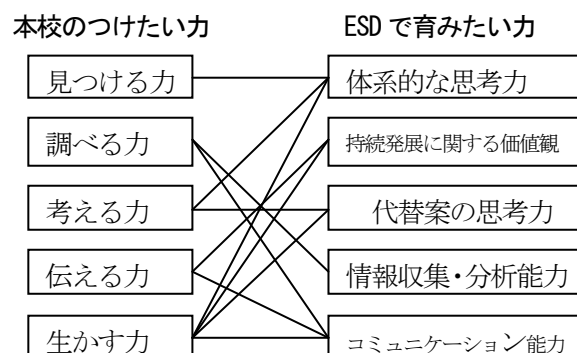
本校では ESD を総合的な学習の時間・生活科を中心に全校で実践していくことにした。実践を始めるにあたり、これまでの総合的な学習の時間・生活科とは何が違うのかということ、まず明らかにする必要がある。

担当者を中心に、ESD に関する資料や学習指導要領を読み込む中から、総合的な学習の時間・生活科で大切にしてきたことと ESD を分けて考える必要はない

ことがわかってきた。しかし、全く同じとは言えない。そこで、ESD についての学習を進めながら、これまでの総合的な学習の時間・生活科について、見直し、整理していくという大きな流れを決め、実践を重ねていくことにした。

(2) 本校の「つきたい力」と「ESD で育みたい力」

本校は「総合的な学習の時間・生活科でつきたい力」として 5 つの力を設定している。「見つける力」「調べる力」「考える力」「伝える力」「生かす力」がそれである。これらが「ESD で育みたい力」と合致するかを検討した。



このように、本校の「つきたい力」は活動内容で分けられており、「ESD で育みたい力」は力の種類で分けられている。しかし、求めている全体像は共通しているといえる。そこで、今後は「ESD で育みたい力」の内容を本校の「つきたい力」に反映させて実践していくことにした。

例えば、「調べる力」とは様々な方法で情報を集めるだけでなく、集めた情報を分析する力までも含むということである。また、コミュニケーション能力はさまざまな学習過程で基盤として必要になることもこの二つの力を関係づける作業で明らかにすることができた。

(3) 実践事例をもとにした学習会

以上のような考え方のもと、これまでの総合的な学習の時間・生活科の取り組みに ESD の観点を入れながらの実践が始まったが、「これは ESD といえるのだろうか。」という疑問が常に教師の中にあった。

そこで、各学年の実践事例をもとに ESD について学習する機会を設けた。金沢大学フロンティアサイエンス機構特任教授の鈴木克徳先生に「ESD とユネスコスクールについて」というテーマで講演をしていただき、ESD についての学習を深めた。その後、鈴木先生より、各学年の実践事例について、ESD の視点からコメントやアドバイスをいただいた。

この学習会は三点において有効であった。

一点目は、各学年の実践内容についてお互いが知ることができたことである。これまでは総合的な学習の時間・生活科での実践について全校で交流する機会がなかったため、自分の学年のことはわかっても他の学年の様子がなかなかわからないという実態があった。

二点目は、どの学年も自分たちの実践が ESD であると思えたことである。さらに、鈴木先生からアドバイスをいただき、これからの実践の展望ももつことができた。

三点目は、ESD は学校の中だけで行われるものではなく、小学校同士の水平的リンク、小中高大の垂直的リンク、社会教育や行政との側面的リンクなど、さまざまなつながりをつくりながら、実践を進めていくという視点も得ることができたことである。これによって、「どんなことができるだろうか。」「どんな人たちが子ども達に出会わせることができるだろうか。」など実践の可能性とそれに対する教師自身の期待がふくらんだといえる。

(4) 他校の取り組みから学ぶ

ESD の先進校へ本校の職員が出かけていき、授業を参観したり、担当者と懇談したりすることで、ESD について理解を深め、より明確なイメージをもつことができた。

富山県の中央小学校では、公開研究授業として、ESD の授業の実例をたくさん見せていただいた。

東京都の東雲小学校では、手島校長先生に、ESD に取り組む必要性や ESD に対する熱意を語っていただいただけではなく、ESD を継続し、充実させていくための様々な仕掛けについても教えていただいた。

宮城県の面瀬小学校では、気仙沼市で行われている水平的、垂直的、側面的リンクによる連携の様子について説明していただき、地域で情報を共有し、ESD を推進していく実際の様子を見ることができた。

また、金沢市内のユネスコスクールの取り組みの様子についても、授業公開や実践交流会などの機会に知ることができた。

これらの他校の取り組み様子を知ったことで、ESD に対する豊かな実践のイメージをもつことができた。それと同時に、実践を進めていく上での細かな手だてについても考えるヒントを得ることができた。

(5) 本校の ESD の基本的な考え方

はじめは言葉だけの理解であった ESD について、次第に実践のイメージが生まれ、本校の実践もある程度積み重なってきたところで、学校テーマ「共に生きる」のもと、本校の ESD についての基本的な考え方を学習内容と学び方の二面から整理した。

① 学習内容の面からの整理

学習内容としては「ひと・もの・こととのかかわり」から自分たちの生活を見直すことができるものであるかが重要である。そこで、総合的な学習の時間・生活科の学習内容を以下の観点で見直してみた。

- ・児童にとって身近であり、くり返しかかわることができる
- ・それを学ぶことが、安全で安心して暮らせる社会をつくることにつながっている
- ・背景に知識体系がある
- ・さまざまな連携の可能性がある
- ・児童にとっても、教師にとっても、期待感がある

見直した結果、各学年の総合的な学習の時間・生活科の学習内容の一部または全部を ESD 単元とす

ることとした。ESD単元の全体に占める割合は学年によって違うが、吟味したESD単元について重点的に取り組むことにした。

② 学び方の面からの整理

本校でこれまで取り組んできた「5つのつきたい力」の考え方を柱に、問題解決型の学習展開を基本とすることとした。

具体的には、問題や課題を「見つける」段階、それを解決するためにさまざまな方法で「調べる」段階、調べたことを分析し、総合的に「考える」段階、適切な方法で「伝える」段階、さらに自分の生活を見つめ直し、これからの生活のあり方や生き方を考える「生かす」段階である。これらは必ずしも順番に行うわけではなく、必要に応じて小さいサイクルを繰り返すこともある。そうしながら、児童も教師も、今、どの段階の学習活動であるのかを意識し、問題の解決に向かって学習をすすめていくことにした。

2 実際の取り組みの内容

学びながら実践し、実践しながら整理してきた1年目と、それをもとに実践を重ねてきた2年目の具体的な取り組みについてここで述べる。

(1) 各学年の取り組みの内容

第1学年「しぜんとなかよし おともだち」(自然)

(目標) 学校や地域の公園、遊び場などにおいて、仲間と共に季節の植物や動物などの自然物とかわることを通し、自然のおもしろさや不思議に気づき、自然を大切にしようとする。

(単元)

- ① 公園となかよし
- ② 花や木となかよし
- ③ とびだせあそびたい(夏)
- ④ あきとなかよし
- ⑤ ふゆとなかよし

第2学年「たんけん はっけん だいぼうけん」

(地域)

(目標) 地域のいろいろな事象(自然・もの・施設・人々)と五感を使って直接かわることを通し

て、地域のすばらしさに気づき、地域を誇りに思い地域への愛着心をもつ。

(単元)

- ① ご近所たんけん
- ② 名人さんはっけん
- ③ 冬の町大すき
- ④ 町たんけんをふりかえろう

第3学年「ディスカバリー大豆」(食文化・地域)

(目標) 地域にある加工工場の見学や大豆栽培や調理などを通して、自分たちの食生活が先人の知恵や仕組み・生態とかかわっていることを知り、自分たちのよりよい食生活について考える。

(単元)

- ① 大豆は本当に食べられるか
- ② 大豆はどんな食べ物なのか
- ③ 大豆を育てよう
- ④ 自分たちにも大豆食品は作れるか
- ⑤ 大豆パーティーをしよう
- ⑥ 自分たちの食生活について考えよう

第4学年「人にやさしく」(福祉)

(目標) 保育園の見学や交流・体験活動を通して、幼児のことを知り、幼児とどのようにかわることができると考えることで、相手の立場になって行動する。

(単元)

- ① 園児はどんな生活や遊びをしているのか
- ② 自分はどんな遊びをしていたのか
- ③ 園児とあそぼう
- ④ 園児のことを考えて遊ぼう
- ⑤ これまでの交流をふりかえろう

第5学年「わたしたちの犀川」(環境)

(目標) 校区を流れる犀川に生息する生物・植物の観察や水質、昔の様子を調べる活動を通して、自分たちの生活が川の環境とかかわっていることを理解し、これからの川とのよりよいかかわりについて考える。

(単元)

- ① 犀川はどんな川か
- ② 犀川の水はきれいか
- ③ 犀川のことをもっと知ろう
- ④ 犀川の支流の水はきれいか
- ⑤ 昔の犀川はどんな様子だったか
- ⑥ 犀川の問題について調べよう
- ⑦ プレゼンテーションでよびかけよう

第6学年「外国の方と交流しよう そして考えよう」

(国際理解)

(目標) 外国の方との交流や外国について調べる活動を通して、世界には様々な文化や生活様式をもった国があることや、そこに生きる人々とのかわりについて知り、異文化理解や自国文化理解を深めるとともに、世界の人々とともに生きる大切さについて考える。

(単元)

- ① 外国の方と交流しよう
- ② もっとたくさんの国の人と交流しよう
- ③ 外国について調べよう
- ④ 学習をふりかえろう

以上のような目標、単元で学習を行った。これは平成21年度の実践であり、平成22年度はこれらに変更を加えながら進めている。

(2) 体験活動の重視

本校では、体験することが重要であると共通認識して、ESDを進めてきた。それは、子ども達が、実際にそのものに触れたり、出かけて行ってその場に身を置いたり、人に出会ったりして、五感を使って、「人・もの・こと」に触れることが、課題や問題を見つけ、それを解決しようとする学習意欲に結びつくと考えているからである。

そのためには、体験活動は、一過性のものでなく、何度かくり返して行うことが肝要である。本校では、学習素材を地域に求めているので、何度か出かけていくくり返しふれあうことは、比較的容易である。

平成21年度の5年生を例にとると、犀川での体験活動を四季を通じて6回行った。その中の一度は、学校近くの若宮大橋を起点に上流の熊走大橋まで、それまでに調べたこと・ものを確かめながらたどっていった。また、真冬の晴天の日に犀川に出かけ、雪で真っ白になった川辺を走ったり、冷たい水の中の石の裏に水生生物がいることを見つけたりした。このような体験は何ものにも代え難く、多くのことを子ども達は感じとったことだろう。

このように、体験活動を重視した実践を進めていると、その有効性を再確認する機会が増えてくる。それによって、教師はどんな体験をさせたらよいか、どのタイミングで体験活動をいれたらよいか、どんな体験活動が子ども達の心を動かすのか、など学習単元全体の流れの中で体験活動を考えるようになってきた。

(3) 実践の記録

先に述べたように、本校では学年毎にテーマを決め、実践を行っている。これまでも、担任する学年が変わっても前年までの取り組みがわかるように、ワークシートや活動の写真などを残してきた。

しかし、実際に前年度の資料を使おうとすると、どのような流れでそれらが使われたのかがわかりにくく、有効に利用できないことがあった。

そこで、取り組みを積み上げていくことを意識して、実践したことを簡単な指導案の形式で記録することにした。そこには、ねらいと学習活動の他に、一時間毎の学習課題と学習のまとめ、使った資料やゲストティーチャーなどについても記録し、学習の流れがわかるようにした。

平成21年度は、各学年のESD単元について、この実践記録を残してきた。ふりかえって見てみると大変な手間がかかっていることがわかる。しかし、その労力以上に本校のESDを充実させるために有効だったといえる。

まず、一時間毎の学習課題と学習のまとめを作成し、実践し、記録することで、児童の問題意識が継続する学習展開を心がけるようになってきたことである。記録をしていると、時には、前時の学習のまとめと次の学習課題が繋がっていないことに後から気づくこと

もあった。そんなふうに、自分たちの実践を小刻みに振り返りながら、つながりのある学習の流れをつくることができた。

また、記録する際には、「本当はこうしたかったができなかった。」という点は、改良を加える形で残してきた。そのため、平成22年度のESDカリキュラム作成あたりでは、前年度の記録+αの状態の資料をもとに考えることができた。

さらに、本来の目的であったように、前年度の学習内容について全く知らない教師が担当することになったとしても、この記録をもとに理解し、追試することが十分行えるようになってきている。もちろん、毎年同じ実践を行うことは求めている。この実践記録があることにより、取り組みが積み上がっていくことをめざしている。

(4) 学習履歴の共有

各学年の総合的な学習の時間・生活科の学習内容についての情報交換をする機会を設けたことについては先に述べたが、それに加えて、ESDの学習掲示板を設け、それに学習履歴を随時残していくことにした。

当該学年だけでなく、他学年の子ども達もいつでも目にするように、学習掲示板は廊下または階段踊り場にある学年掲示板を利用した。掲示は活動の写真ばかりにならないようにし、ここでも実践記録と同様に学習課題や学習のまとめを書き込み、学習の流れがわかるようにした。

これにより、子ども達は自分の学年の学習履歴をいつでも見ることができるようになり、同時に他学年

の学習内容についても知ることができるようになった。下学年の学習については、自分たちが経験した学習と比べ、上学年の学習内容については憧れや期待を抱くなど、ESD単元についての関心が高まったようだ。



ESD 学習掲示板

また、教師同士も他学年の学習内容をいつでも見ることができ、特に時間を設けなくても、今、それぞれの学年がどんな学習をしているかを知ることができるようになった。

(5) 学校研究としてのESD

学校研究の中にESDを位置づけ、研究授業にも取り組んできた。

平成21年度は第2学年の生活科「たんけん はっけん 大ぼうけん」が低学年分科会研究授業として行われた。

自分が会ってみたい「名人さん」へのインタビューを前に、よりよいインタビューの仕方について、話し方と内容の両面からお互いにアドバイスしあうことをめあてとした授業であった。

当日は、金沢市立材木町小学校 大浦博幸校長先生、富山大学 松本謙一教授に助言していただき、ESDにおいて、体験すること、学び合うことが大切であることを確認することができた。

平成22年度は石川県活用力パイロット事業の公開授業として、6月に第3学年の総合的な学習の時間「ディスカバリー大豆」、11月に第5学年の総合的な学習の時間「わたしたちの犀川～戸板小環境サミット～」が行われた。

第3学年「ディスカバリー大豆」では、煮豆を作った経験をもとに、豆腐の作り方を予想した。予想する際には、実際に大豆をすりつぶした具を見ることで、子ども達の追求意欲が高まった。

教育プラザ富樫研修相談センター 作田芳太郎指導主事に助言していただき、探究的な学習では、性急に答えを求めめるのではなく、トライアンドエラーをくり返しながらか、協同的な学びをつくっていく大切さを確認することができた。



第3学年「ディスカバリー大豆」

第5学年「わたしたちの犀川～戸板小環境サミット～」は、それまでに学習したことをもとに子ども達が作った犀川の環境保全プランについて専門家から意見をいただき、これからどうしたらよいかについて考えることをめあてとした授業であった。

ゲストティーチャーとして、それまでの学習で交流のあった金沢市環境指導課、北陸水生生物研究センター、金沢二水高校から3名の方をお迎えした。

金沢大学 加藤隆弘准教授からは、ESDにおいて地域の問題を取り上げることの大切さを評価していただくと同時に、具体的な行動を起こすことで社会との

かわり・つながりを意識することができ、そのことが地域への愛着をもつことにつながるという指摘をいただいた。



第5学年「戸板小環境サミット」

実践の交流だけでなく、このようなESDの授業をもとに協議することができたことは、これから取り組みを行っていく上で有効に働いたといえる。

(6) 発信する場の設定

人や社会、自然との「かかわり」「つながり」を尊重するESDを推進していく上で、自分たちが調べ、考えたことを周りに発信し、問うてみることは重要である。また、子ども達の「伝える」場面をより多くの相手を前に行いたいと考え、平成22年度の学校行事フェスティバルin戸板をESD学習発表会と位置づけることにした。この行事はそれまでも学習発表会の意味合いをもつ行事であり、保護者をはじめ地域の方にも来ていただいていた。

平成22年度のめあては「勉強したことを生かして協力しあい、楽しいフェスティバルにしよう」。このめあてに沿って、各学年及びクラスで以下のような発表を行った。

ESD 学習発表会の内容と発表形態

学年	内容	形態
1年	「あきとなかよし」	展示・クイズ・体験
2年	「名人のわざにちょうせん」	展示・体験
3年	「ひろし大豆をすきになる」 「しょうゆとみそのひみつ」 「みそ、しょうゆ、とうふ、なっとうのはじまり」	劇・実演 クイズ・ ポスターセッション
4年	「人にやさしくなろう」	ポスターセッション・ 体験
5年	「犀川不思議ワールド」 「パーフェクト犀川」 「犀川タイムスリップの旅」	クイズ ペープサー ト・劇・プレゼン
6年	「外国について知ろう」	プレゼン

また、これまでの児童相互の評価に加え、参観者によりの項目について評価してもらった。

- ・学習した内容がわかりましたか（4段階評価）
- ・発表の仕方の工夫はどうでしたか（4段階評価）
- ・自由記述欄

評価は肯定的なものほとんどで、子ども達は適切な方法で学習したことを伝えることができたと考えられた。しかし、一方で参観者に判断基準が提示されておらず、正しい評価ができなかったとも考えられる。また、自由記述欄には子ども達の声が聞こえにくかったという指摘もあった。

今後はせつかくの外部評価の機会を十分活用できるように方法を工夫すると共に、かかわりのあったゲストティーチャーの方々にも評価していただく場を設けていきたいと考えている。



フェスティバルin戸板

第4学年「人にやさしくしよう」

3 取り組みの成果と今後の課題

(1) より良いカリキュラムの追求

略案形式の実践記録を作成したことにより、前年度の実践をもとに学習計画を立てることができるようになった。しかし、これは教師が新しく用意しなくても、一定レベルの実践ができるということでもある。

ESDは教科学習のように学習内容は決まっていない。それだけに、目の前にいる子ども達の実態や興味をもとに、その時々々の社会情勢なども加味しながら、教師一人一人がどんどん学習内容、学習展開を変化させていく必要がある。そうしてはじめて、生きた学びとなると考える。

これまでの実践記録は大切な財産としながら、教師と子ども達でより良い学びをつくりだしていく、そんな考えで取り組んでいきたい。

(2) 子ども達につけたい力

ESDを実践してきて、子ども達の変化としては、まず、「見つける力」が向上したといえる。

課題を見つける場面は多くの場合、実際に出かけて行ったり、人に出会ったり、実物を手にしたりする体験活動の場である。その中から課題を見つけ、調べ、考えをつくり、伝える学習をくり返す中で、課題をキャッチする感受性が育ってきているといえる。その時の問題意識が強く、その課題が考える価値のあるものであれば、その後の学習活動も充実してくる。したがって「見つける力」がついてきたことは大きな成果だと言えよう。

また、ゲストティーチャーの話を直接聞く機会をできるだけ設けてきたことで、質問する力がついてきたと感じている。

質問は事前に考えおくことはできるが、相手の話に応じて臨機応変につけ加えたり、変更したりすることも必要となる。そして、その質問をきっかけに予定外の思わぬお話を聞けることもある。子ども達が恥ずかしがらずに、的確な質問ができるようになってきたことも大きな成果である。

さらに、「伝える」方法をいくつか知り、その中から適切なものを選ぶことができるようになったことも成果といえる。

今後もESD学習発表会で工夫を凝らした伝え方を体験することで、この力はさらに向上していくと考える。

子ども達の姿として、以上のような成果が見られたが、さらにつけていきたい力もある。

それは、他に働きかける力である。本校のつけたい力でいうと「生かす力」にあたる。

これまでの本校の実践では、行動を起こすということまでいかないことが多かった。しかし、小さなことでも行動を起こし、周りに働きかけることで、さらに関心が増し、そのことについて良く考えることができる。今後は「具体的な行動」までを視野に入れて学習を展開していきたい。

(3) 体験活動のさらなる充実

体験活動の大切さについては共通の認識となってきており、多くの体験活動が取り入れられるようになってきたことについては先に述べた。

これまでかかわってきた施設やゲストティーチャーについては情報を整理し、すぐに連絡できるようにしているが、これで十分とは言えない。今現在進行している学習にふさわしい体験活動ができるように、新しい場や人を探すことも必要となってくる。

そのためには教師は「こんなことを話してくれる方はいないだろうか」と常にアンテナを高くしていなければならない。そして、見つければ学習の意図を伝えるなど、コーディネイターとしての役割も果たさなければならない。

このような不断の努力の上に子どもの心を動かす体験活動が可能になると考える。

(4) ユネスコスクールとの連携

本校がユネスコスクールに加盟したことにより、平成22年8月には本校職員が国際交流事業に参加し、韓国のESDについて知る機会をもつことができた。

また、平成22年11月には、アジア5カ国のユネスコ委員の方々の訪問を受け、体験を重視する教育の重要性について評価していただいた。

このように、ユネスコスクール(ASPnet)は世界とつながっていると感じる機会があったものの、金沢市

内や国内のユネスコスクールと連携することはあまりできていない。

今後は、ユネスコスクールのネットワークを生かして、取り組みを点から線へ、線から面へと広げていくことを考えたい。

4 おわりに

「ESD って何だろう」全ての教職員がこの思いから始まった二年間であった。本校はこの二年間で基本的な考えを整理し、実践を残し、ESD 推進のための手だてをいくつか持つことができた。

しかし、ESD についてある程度理解しているはずの今でも、やはり「ESD って何だろう」という疑問が頭をもたげてくる。

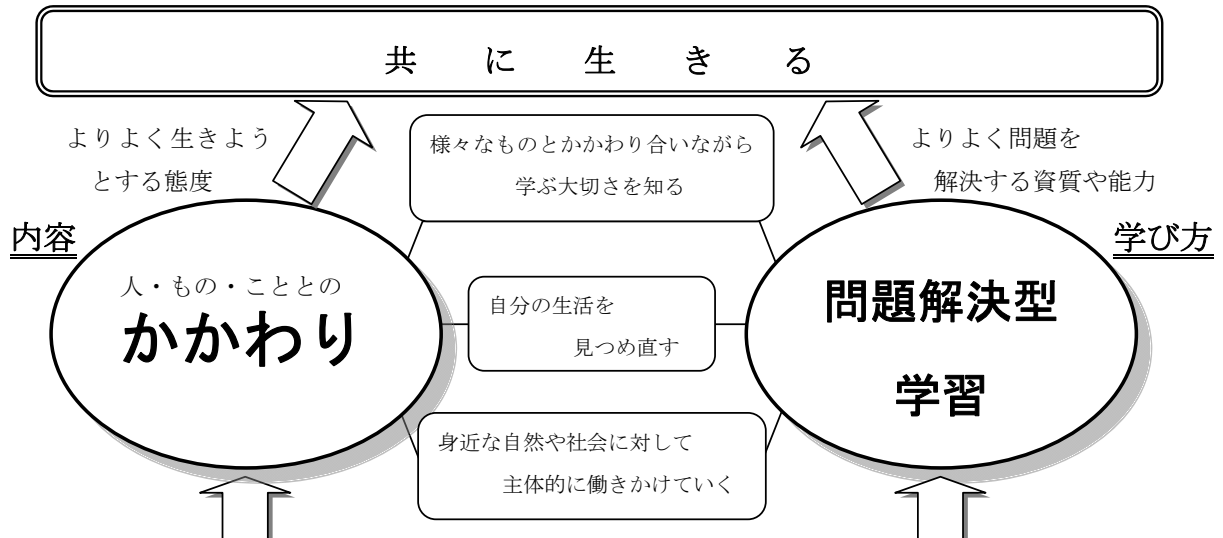
ESD とは、自分がよいだけでなく、他の人もよいこと、そして未来の人にとってもよいこと。こんなとらえかたはどうだろうか。

ESD は「持続可能な社会の担い手を育む教育」である。しかし、ここでいう「担い手」は子ども達だけではない。私たち教師もその一員である。そして保護者もそうである。だからこそ、子どもを中心に置きながら、安全で安心して暮らせる社会を一緒につくっていきたいと思う。

ところで平成 23 年度からは、新しい学習指導要領が実施される。それにもなつて、金沢市では 3・4 年生の総合的な学習の時間が現行の半分となるため、学習計画の大きな変更が必要となる。

少し見通しがもてるようになってきたところでの大きな変更は残念な気もするが、ここはチャンスととらえたい。限られた時間の中で、ESD のエッセンスを残しながら、どんな豊かな実践ができるかを考えていきたい。

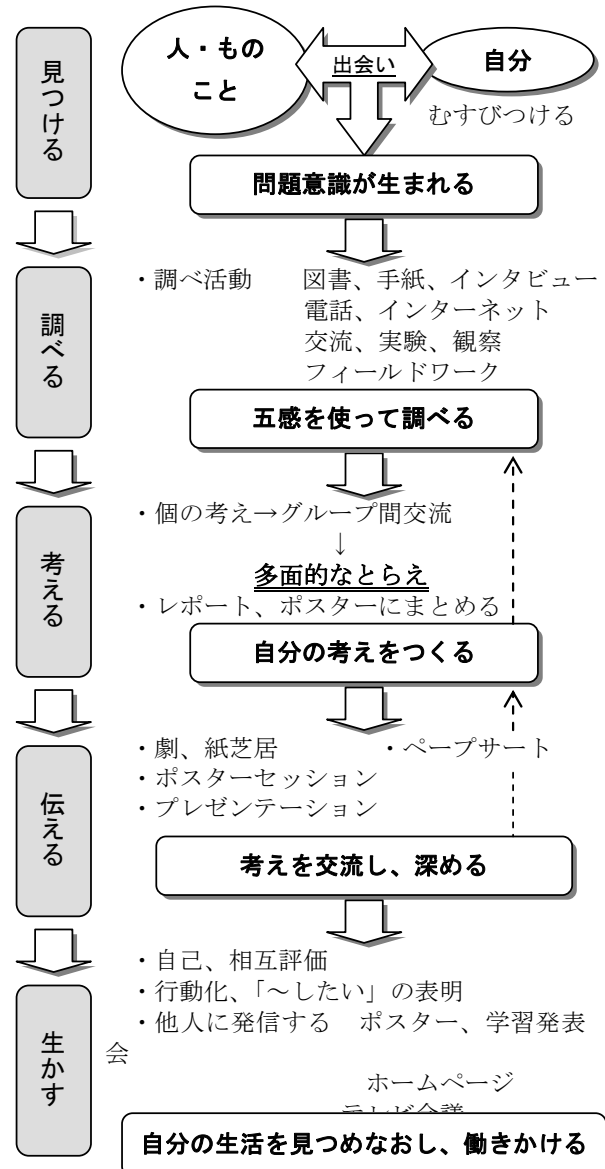
学校テーマ



【各学年のテーマ及び目標】

第1学年	<p>「自然となかよし おともだち」(自然) 地域にある公園や遊び場などにおいて、なかまとともに季節の植物や動物などの自然物とかかわることを通して、自然のよさに気づく。</p>
第2学年	<p>「たんけん はっけん 大ぼうけん」(地域) 地域のいろいろな事象(自然・もの・施設・人々など)と五感を使って直接かかわることを通して、地域のすばらしさに気づき、地域を誇りに思い地域への愛着心を持つ。</p>
第3学年	<p>「ディスカバリー 大豆」(食文化・地域) 大豆栽培や調理、加工工場の見学などを通して、自分たちの食生活が先人の知恵や自然の仕組み・生態とかかわっていることを知り、自分たちのよりよい食生活について考える。</p>
第4学年	<p>「人にやさしく」(福祉) 保育園の見学や交流・体験活動を通して、幼児のことを知り、幼児とどのようにかかわることができるかを考えることで、相手の立場になって行動できる。</p>
第5学年	<p>「わたしたちの犀川」(環境) 校区を流れる犀川に生息する生物・植物の観察や水質、昔の様子を調べる活動を通して、自分たちの生活が川の環境とかかわっていることを理解し、これからの川とのよりよいかかわりについて考える。</p>
第6学年	<p>「外国の方と交流しよう そして考えよう」(国際理解) 外国の方との交流や外国について調べる活動を通して、世界に様々な文化や生活様式をもった国があることやそこに生きる人々とかかわりについて知り、異文化理解や自国文化理解を深めるとともに、世界の人々と共に生きることの大切さについて考える。</p>

【問題解決型の学習展開】



資料 5年 『わたしたちの犀川』～犀川ってどんな川～（5～9月）

1. 目標 校区を流れる犀川でのフィールドワークを通して、犀川に生息する植物や生き物、橋、人などに関心を持ち、それを調べることで、犀川を多面的にとらえることができる。

2. 単元計画（総時間数 28時間＋課外）

段階	育みたい力	おもな学習の流れ
見つける	見つける力 犀川を散歩することを通して、個々の課題を見つけていくことができる	犀川に行ってみよう <div style="border: 1px solid black; background-color: yellow; text-align: center; padding: 5px;"> < 犀川ってどんな川？ > </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 犀川はどんな川か④ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> フィールドワーク 1（散歩） ・犀川に行こう、見よう </div>
	調べる	調べる力 犀川について選んだ課題を、多様な方法で調べることができる
考える力 予想を持ち、見通しをもって考えることができる		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 犀川の水はきれいか ⑤ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> フィールドワーク 3（水生生物での水質調査） ・採取した水生生物を集計して、水のきれいさを判定しよう </div>
伝える	伝える力 犀川について調べたことを、相手にわかりやすく伝えることができる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 犀川のことをもっと知ろう ③＋夏休みの課題 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・テーマを決めて、調べよう ・調べたことを教え合おう </div>
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 一枚プレゼン </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 一枚プレゼン ポスターセッション </div>
生かす	生かす力 犀川について分かったことを、絵地図に表し、犀川を見直すことができる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> 犀川はどんな川だったかな⑩ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> フィールドワーク 4（さらに上流まで歩く） ・みんなが調べたことを見に行こう ・見てきたことを絵地図に表そう ・犀川について、今の自分が感じていることをまとめよう </div>

資料 5年 総合的な学習の時間 実践記録（一部）

単元名 犀川ってどんな川？（17時間）

月	ねらい	時	学習活動	評価基準
5	・金沢市にとって犀川が大切な川であることをとらえ、関心をもつ	1	<p>〈犀川ってどんな川？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犀川について知っていることを出し合う ・犀川を紹介したビデオを見る (ビデオいいね金沢「二つの川と生きる町」) ・犀川について知りたいことを書く <p>犀川は金沢にとって大切な川なんだな。実際に犀川に行っているいろいろなことを見てみたいな。</p>	<p>関犀川に関心を持ち、具体的に知りたいことを書いている (ワークシート)</p>
6	・犀川へ行って観察する視点を持ち、次の活動への意欲をもつ	1	<p>〈どんなことを見てくるか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・犀川について知りたいことを出し合う ・水のきれいさ、流れの速さ、植物、 ・予想する ・上流か下流か見てくる方向を決める <p>上流（下流）に行って、見てくるのが決まったよ。早く行きたいな。</p>	<p>思自分の知りたいことについて予想している (ワークシート)</p>
	・自分が知りたいことについて、実際に見て確かめる	3	<p>〈犀川に行って、見よう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上流と下流に分かれて観察する (水には入らない) ・見たこと、気づいたことを記録する ・活動の感想を書く <p>いろいろな花が咲いていたよ。鳥のすみかがあったよ。あっちのグループはかにかがいたらしいよ。他の班の話も聞いてみたいな</p>	<p>技知りたいことについて、観察し、記録している (ワークシート・行動)</p>
	・見てきたことについて、わかりやすく教え合う	3	<p>〈犀川の上流・下流はどんな様子？〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班ごとに見てきたこと、気づいたことを出し合う ・知らせ方について相談する (一枚プレゼン) ・発表を聞いて、上流・下流の様子をとらえる <p>水はきれいという班と汚いという班があったよ。どっちなのかな。</p>	<p>技わかりやすく伝えようとしている(発表・原稿)</p> <p>思他の班の話聞いて、共通点や相違点を見つけている(ワークシート)</p>
7	・水生生物で水のきれいさを調べる方法が分かる	1	<p>〈水のきれいさはどうやったらわかるのかな〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットを見て、水生生物と水のきれいさについて理解する ・水生生物のだいたいの様子を知る (パンフレット「川の生きものを調べよう」 水生生物による水質判定 環境省水・大気環境局、国土交通省河川局 編) (したじき 日本水環境学会 発行) <p>すんでいる生物によって、水のきれいさがわかるんだな。今度は水に入って、生物を採って、水のきれいさを調べてみたい。</p>	<p>知水生生物で水のきれいさを調べる方法が大まかに分かる</p>